

長崎通信

1980年5月15日 No.53

長崎の証言の会発行

長崎市宝栄町18-4(岡村進)

力の政治に反対する

狂気のさたと思えないような核大国のエゴが地球上で展開されている。ソ連のアフガニスタン進攻であり、イランでのアメリカの作戦などである。核をちらつかせながらの力の政策には、どの国も同調しないことが、地球を存続させる道につながる知恵だと思う。世界の平和は民族の主権と独立を保障しない限り保てない。この真理はお互いに従属国を作らない、また、仮想敵国を作らないことである。

我々の生活の中でも仮説をたてて論じ合う場面を多く見かける。仮説と現実を混同しての推論は道を誤る第一歩である。(岡村)

政治段階で生かされるか

基本懇答申

言葉の上で、もはや戦後は終わったとはかつて経済白書のキャッチフレーズに使用されたことだが、被爆者の心に、終戦に導いた原爆被害の傷跡は深く残っている。

三十五年経ての戦後処理とも言える厚生大臣の私的諮問機関、原爆被害者対策基本問題懇談会(基本懇)座長 茅誠司・東大名誉教授ら委員六名の来崎により四月十一日、被爆者代表十一氏による意見陳述が行われた。発言順に江頭千代子・田崎英治・上戸庄一・熊沢運広・小佐々八郎・谷口稜・渡辺千恵子各氏の順で各自十分間の持時間で、七分間が意見陳述、三分間が質疑応答に当てられた。委員側の発言は殆んどなく、余ったわずかな時間で、小佐々・江頭・渡辺三氏が補足発言をすることになった。

陳述人のひとり渡辺千恵子さん

「記者の目」欄で本末転倒の被爆者行政と題し、「基本懇委員のスケジュールの関係にしても、涙ながらに訴える被爆者一人一人に「残りあと三分」のメモを差し出して、中村義明氏広島へ帰郷後、小生が事務局詰めとなった。私事ながら、一九四五年、八月六日、国民学校一年の私は、広島市の江田島(海兵隊内)でセミ取りに外出した途端、頭上低く飛ぶB29を目撃した。

高射砲の砲撃も下方で黒煙ばかり、たちまち古鷹山上空より広島上空へ至り左から右廻りに施回しその後のすごい閃光と爆風で吹き飛ばされた記憶が鮮明である。広島原爆被災誌第4巻P826の同島目撃者なしの記述が正鵠を得てない旨の証言を長崎よりする次第である。

広島は政令指定都市となり、長崎はむかしの夢より再びと中国との友好を深めている。だが被爆者の身心に刻まれた悲惨な体験が癒されるのはいつか、のどもと過ぎて熱さを忘れぬ被爆者が大勢いるのに、日本青年会議所の防衛意識調査によると(調査対象五万二千余名)①いつか核武装すべきだ②近い将来すべきだ③いままさぐさすべきだの合計で約五四%が核武装肯定の立場だという。平和を守るために戦闘的にならざるを得ないとしたらこれもまた歴史の皮肉である。

(川嶋 生)

被爆35年援護法即時制定全国行脚

長崎をスタート

四月十四日那覇市を出発した金城文英・沖繩県被団協会長を迎え引き継ぎ集会が開かれた。

同会長は「西銘県知事は行政は行政の立場で対処する」として署名を拒否したと語った。

目的は①基本懇答申の賛同署名②二千万署名③被爆者に対する健康管理の国庫負担・被爆者年金・障害者年金の支給、原爆死没者の遺族に弔慰金と遺族年金の支給④国会に被爆者援護法制定の特別決議の要請、⑤核兵器廃絶の世論

を盛りあげる。など。

この「行脚」は被爆問題市民団体懇談会(十一団体)が、主催しており沖繩・広島・札幌三地区からの東京集結は五月二十二日(木)で、同日、二十三日(金)は中央行動を予定している。

入市被爆の釜山在住崔さんは5月1日来日、2日赤長崎原爆病院に再入院されました。崔さんは10日間の滞在で精密検査を受けることになっています。

短信

◎会長・秋月先生は昨年来、海外出張等で病床にありましたが、このところ平常は早朝起床で院長業務を続けられ、午後よりベッドで静養されています。不順な天候が先生の身心にも微妙な影響を与えているようです。

◎小佐々八郎氏は退院後五ヶ月目自宅で散歩をしながらリハビリに努力され、今や言語障害は殆んど回復されています。

◎元毎日長崎支局長、梅田之氏宅には、故福田須磨子さん未発表原稿約二〇枚が保管されています。同氏は詩集、「原子野」刊行に尽力された方でした。

◎鎌田定夫氏は、原普協、武居洋、山川剛氏らと共に六月バリのユネスコ軍縮教育会議に出席されます。

歴史の皮肉とは?

☆フランスの哲学者サルトルの死は、彼が来崎した十四年前の新聞談話を想い出させた。「カトリシズムのこの地に原子爆弾が投下されるのは歴史の何たる皮肉よ」といった主旨である。

キリシタン弾圧史をふまえた発言だと思われるが、在京のころ、知人はサルトルの著書はキリスト教では禁書に挙げられていると語

っていた。

中村義明氏広島へ帰郷後、小生が事務局詰めとなった。私事ながら、一九四五年、八月六日、国民学校一年の私は、広島市の江田島(海兵隊内)でセミ取りに外出した途端、頭上低く飛ぶB29を目撃した。

高射砲の砲撃も下方で黒煙ばかり、たちまち古鷹山上空より広島上空へ至り左から右廻りに施回しその後のすごい閃光と爆風で吹き飛ばされた記憶が鮮明である。広島原爆被災誌第4巻P826の同島目撃者なしの記述が正鵠を得てない旨の証言を長崎よりする次第である。

広島は政令指定都市となり、長崎はむかしの夢より再びと中国との友好を深めている。だが被爆者の身心に刻まれた悲惨な体験が癒されるのはいつか、のどもと過ぎて熱さを忘れぬ被爆者が大勢いるのに、日本青年会議所の防衛意識調査によると(調査対象五万二千余名)①いつか核武装すべきだ②近い将来すべきだ③いままさぐさすべきだの合計で約五四%が核武装肯定の立場だという。平和を守るために戦闘的にならざるを得ないとしたらこれもまた歴史の皮肉である。

(川嶋 生)

「長崎の証言」五号に私の書評をおのせいただきありがとうございます。お返しに私の書評をおのせいただきました。

遠く山口県で物を作り、ローカルで細に生きている人間にとってお顔も知らぬ方からお励ましや喜びのお便りをいただくことが、私

ドキュメンタリーに生きる
岩国市 磯野 恭子
(山口放送ディレクター)

論理を超える世論づくりを
長崎市 近藤 正志
(毎日新聞長崎支局記者)

核実験への抗議
長崎市 岡村 進
(長崎の証言の会事務局)

このところ沖縄出身の移民抗夫の追跡に余念がなく、一昨年から住所不定のような生活です。年をとりましたので達者な間に仕事をしなければと、しきりに心がせくようです。

今回手がけておりますのは、本土の炭鉱離職者ではなくて、沖縄からメキシコの炭鉱へ出稼きに行った一人の人物を中心にした記録で、昨秋創刊した「人間雑誌」という季刊誌に連載をはじめております。右のような事情でせつかくのお呼びかけにもご返信をさしあげられませう、お許し下さいませ。(福岡県鞍手郡)

たちなりの生きる力になるのです。恵まれない、ハングリな状況の中でこそ、今はいい仕事ができる時代なのかもしれません。自分を慰めたりしています。

ローカル局はいずれも同じ、合理化と管理体制が猛烈に進められ加えて新採用をしないという三種の神器で高い利潤をあげるのを当然としてきました。

そうした現実を抗するところから私たちのドキュメンタリーは始まるのです。細々と夜の悪い視聴率に耐え、少ない人員と費用で、それでもせい一杯に発言していきこうという全国で何人かのドキュメンタリストが存在していることを忘れないで下さい。「長崎の証言」にタッチなされてきた情熱も、そんな私たちの情熱に似ていないでしょうか。頑張ってください。(岩国市)

展開の同意を求めた本島等市長に、孫平化中日友好協会副会長はこう答えた。「核のない世界平和を」という長崎市民の願いと核保有国の認識のギャップは大きい。孫副会長は覇権主義に反対し、世界平和を達成するのが中国の目標には、核を持たねばならない。中国は核の被害を最小限にとどめるのは可能であり、核は恐ろしくないと教育している。局地戦争も起きていない現実を考えると、核兵器のない平和は美しい理想だが、今の世代、次の世代では現実的問題にならないと言いつつ切った。

恐らくは、核保有国にはば共通する論理であり、この論理を乗り越えずして、核廃絶の実現はあり得ないのではないかと。

それぞれ抗議する。被爆地長崎での核実験への抗議は当然のこととは言え、最近の国際的な紛争の中で核大国が核兵器の使用をちらつかせていることは許せないことだ。核戦争が世界の終えんの時であることは多くの人が認めていることであるが「まさか使うことにはあるまい」という甘さのなかで、核軍備を認める人が案外多いのではないかと。長崎の教員の中で日本の軍備を現在の三倍以上に増強するよう主張する人も出てきている。平和は力の均衡からという論理である。

その人は戦争による人間の苦しみ、被害の悲惨さがどんなものであるか考えたことがあるのか疑わしい気さえる。

核兵器の使用を阻害できるのは世論だと言う。一度の間違ひも許されないのである。そのために我々に出ることは何か。

小さい声、小さな叫びを集めて反核兵器の世論を拡げることだと思ふ。そのための抗議の座り込みである。



最近の渡辺千恵子さん

事務局

十六才の時、学徒動員で探照灯のコール巻き作業中に被爆した渡辺さんは「あの時、ただ日本が勝つことを信じ、空腹になると軍歌を歌って作業に励みました。感情的な自分でしたが、原爆乙女の会への入会以後、社会構造を見つめることで戦争が引き起されるプロセスを学びました。米国でも悪条件の中で、平和を守るたたいをせし、今後は国連軍縮センターが、国連を舞台に、強力な主導権を発揮して核兵器廃絶の声を実現させてもらいたいと思っています」と語っていました。

永年、渡辺さんの看護を続けてこられた母スガさんは今は亡く、寂しさから飼育を始めたという文鳥は、訪問した私の頭に肩に自在に飛び交い、近隣の人たちの善意と共に渡辺さんの心の慰めとなっているようでした。

(現住所・長崎市)



釜山支部をまたよろしく

釜山市 朴 貞点
(韓国被爆者協議会副会長)

こちら釜山支部一同相変らずです。二回目の訪日治療が決定した。崔季淑さんの件ですが、遅くとも四月はじめ渡日の予定が、事情で少し遅くなりそうです。

本人の体の具合もよくないので、いま住んでいる家をあけてほしいとの話があり、そのことで大変心配しています。

でも四月末近くには解決がつかうので、決まりましたら一日も早くお知らせいたします。

いつも無理ばかり申しましてまことに申し訳ないと思っております。近いうちに支部長と共に渡日することになりますので、その折にはどうかよろしくお願いいたします。みなさまのご健康をお祈りします。(釜山市)

ビキニ・福電丸を追い続けて

東京都 広田 重道

三月九日、突然倒れて、救急車

にて病院入り、やっと二度、三度の死期をのりこえたものの、いま少し加療が必要とのことです。

目下ハビリテーションにかかり、カムバックをねらっていますのでご安心下さい。これからの活動のやり方については色々と考えて、余り自分一人で重い荷物を背負わないことにしますが、ビキニ事件、福電丸についての追求の手は止めません。(東京都江東区)

「火の雨」の再版から

佐世保市 徳永 辰雄
(佐世保市空襲記録委員会)

今年早々たちの悪い風邪にやられ、三月末まで休養、やっと元の体に戻ることができました。

会費のことがいつも気になりながらも遅れ遅れ、やっと昨日、別途送金いたしました。

ことしもまた忙しくなりそうです。沖縄での全国大会や平和祈念資料館建設にひとしかならない体をあちこちに動かさねばならぬでしょう。さしあたりその前に今年「火の雨」の再版をやること

移民抗夫をたずねて

福岡県 上野 晴子

さきごろは「長崎の証言」をおりいただきながら御礼も申し上げませう。お許し下さいませ。皆様の真シなご活動のまはよく存じながら何のお役に立つこともできませんが、せめて今年からは誌代だけでも納めさせていただきますよう別紙の通り申込みいたします。

これも今年草々から思いながら、このように遅れてしまいました。さて、先はアンケートをいただきましたが、折悪く上野が沖縄へ取材旅行中で連絡がとれませんでした。回答をさし上げることができません。あしからず思召し下さいませ。

数年前から中南米の各地へ炭鉱離職者を訪ね歩きました上野は、